埼玉純真短期大学研究論文集　第 12 号　PP.106-110

チェコの教育の歴史

加藤　房江
（こども学科　准教授）

平成29年末から，平成30年1月初めにかけて，チェコ・オーストリアの海外研修旅行に参加した。その際,チェコのモラヴィアにあるギムナジュウムのジェームズ学長より，チェコの教育の歴史について，お話を伺った。

ジェームズ学長の勤務していたモラヴィアにあるギムナジュウムは，チェコの東部に位置し，プラハから250ｋｍのところにある。モラヴィアのギムナジュウムの生徒は，700名ほどで，12歳から8年間通う学生や，15歳から4年間通う学生が在籍しているとのこと。

プラハ城から見下ろす街並み

ジェームズ学長より，語られた教育の歴史

チェコは，神聖ローマ帝国，オーストリア・ハンガリー二重帝国，ナチス・ドイツ，ソ連など周辺の社会情勢の影響受けてきた。それと同様に教育も歴史に翻弄されてきた。

教育の歴史においては，9世紀初頭，チェコとスロバキアにまたがる地域に大モラヴィア王国が成立した。ビザンティン帝国（東ローマ帝国）からの布教によってキリスト教を受け入れ発展してきた。大モラヴィア王国は906年にマジャール人（現在のハンガリー人）の侵攻で滅亡する。9世紀の中ごろ，ボヘミアにプレミスル家による王国が成立する。最初のボヘミア（チェコ）王はヴァーツラフⅠ世（在位921－929年）で，プラハは首都として基礎が築かれる。ヴァーツラフⅠ世没後，その弟ボレスラフⅠ世はドイツ王と共に戦ってハンガリーを追い，チェコは神聖ローマ帝国（ドイツ）の支配を受けながらも自立した国家となった。このように国を統括する時の貴族の宗教から教育が行われたのが，教育の始まりだった。

1343年カルレⅣ世が大学を創立。アルプス以北で，初めての大学で，スラブ・ゲルマン言語で行われた。

15世紀，ヤン・フス（カレル大学の学長・宗教改革者）が教育を行なっており，チェコの考えが，学校に組み込まれていった。ヤン・フスは，革命の父であり，学業革命，チェコ王国の革命を行った。

また，聖書をチェコ語に翻訳し，女性に対する教育の重要性にも目を向けた。ヤン・フスは，チェコ人の誇りであり，その像は，旧市街広場のシンボルになっている。

15世紀～16世紀ヤン・アモス・コメンスキー（コメニウス）は，現代教育の教育準備，教育システムをシステマテックに進めるモダンな教育，考え方であった。しかし，宗教改革者ヤン・フスの流れをくむボヘミア兄弟団の牧師で，また教団の指導者であったことから，30年戦争の影響により，国内逃亡を余儀なくされ，ポーランドに脱出し，それ以後祖国へ戻れることはなかった。

1618年の30年戦争では，カトリック派にチェコ民族は敗れ，国にカトリック派が入ってきた。カトリックが嫌なら，亡命するしかなく，一気に人口が減少する。ドイツ語が，第一言語になり，チェコ語が使われなくなり，教育から排除された。

18世紀のマリア・テレジア女帝と息子ヨーゼフ2世の時代に，ハプスブルク家が統治するオーストリア，ボヘミア，ハンガリーでは多くの改革が実施された。

1750年，チェコがなくなる歴史として，チェコ語の書籍が集められ処分される。

1772年，教育革命：義務教育制度が導入された。国が教育を担うようになる。マリア・テレジア女帝による国民教育である。学校に通い出席を取るシステムにした。教育の中で，文章を介して必要な情報が得られる教育にし，軍隊にも教育を施し人材を排出した。人間としての振る舞いも教育するねらいがあった。言語は，ドイツ語のほかにラテン語を併用して使用していた。近代化と中央集権化を図り，社会制度を整えようというねらいである。

18世紀末，文化的・社会的奇跡が起こる。民主国民運動である。1786年，劇場にて，チェコ語を使用した演劇が行われ，大成功をおさめた。その後チェコ語がトレンドとなり，復活してきた。その時の学者ヨゼフ・トプロスキーがチェコ語を担った。ハップスブルグ家にもチェコの人権を認めてもらった。書物がチェコ語に翻訳されなど，チェコ語のリハビリテーションが行われた。オペラ座も建てられ，1869年，教育の大改革が行われ，導入され，1948年まで使用される。その内容は，学校建設が行われ，歩いて1ｋm以内，50人以上が通わなければならない決まりになり，田舎まで，学校がつくられた。

1880年，250年ぶりにチェコ語で講義され，授業が受けられるようになった。ギムナジュウムもその時建てられ，授業がなされた。

1914年，チェコ人で読み書きが出来ない人はいなくなった。当時の学校は，勉強が出来ないと跪かされたとのこと。

1918年，チェコスロバキア共和国となる。チェコとしての教育システム，誇り，それまでの教育を壊さず引き継いだ。考え方の改革，アメリカの教育を参考にしている。女性のリハビリテーションとしての教育も行うようしていった。

1921年，教育に対しても女性が権利をもって受けられえる。モダンな科目，民主主義的人権などを教育される。当時世界でもとても優れていた。

1932年，ナチズムにより，今までの教育が壊される。1932年から，1945年までの間，教育も占領され，チェコの大学は閉鎖された。生徒が虐殺され，22万人の命が奪われた。ユダヤ系やチェコの教育者までも，収容所に送られていた。

当時の教育者が亡くなる前に，チェコの教育について，聖書の中に書いたものが，ベルリンに運ばれ，それを息子が受け取り，その意志を汲み取り，学業を受け継いだ。そして，現在は孫が引き継ぎ，カルレ大学で教鞭をとっている。

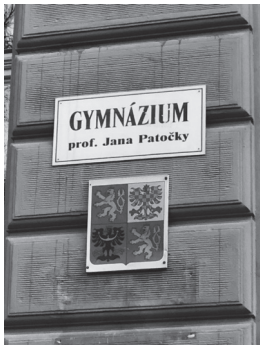
1948年，選挙にてチェコは社会主義国家となる。教育のシステムも変わり，社会主義の理想が押し

付けられ，社会主義の理念を持った考えが一方的に押し付けられた。私立の学校は，廃止され，国・社会主義が統括する学校，大学だけになる。しかし，教育のレベルは下がらず，一定のレベルは保たれた。農業や技術的な専門の教育がなされる。第二次世界大戦後は，学校の先生になるためや技術者になるためなど，目的のために勉強するスタイルになった。

1989年，社会主義が終了し，民主化の流れになった。教育もシステムも改革され，国の管轄の学校は，公立の学校になり，政治的な影響がなくなった。ビロード革命までは，ロシア語が必須科目であったが，語学の制約がなくなり，ロシア語も他の外国語（英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語）と同様に選択科目となった。私立学校も建設された。この改革の時，国のインフォメーションが複雑化し，文化庁のトップがころころ替わり，その度に考え方も変化していた。

1995年，公立の小学校から高校までは，国が金銭的にカバーしている。ルールとして，その地方の子は，地方で，100％面倒をみる。私立学校は，有料である。

義務教育は，6歳から15歳の9年制となった。基礎学校は，1年生から5年生の第一部と，6年生から9年生の第二部に分けられている。義務教育が終わると，ギムナジウム，専門学校，専門訓練所などに進学する。ギムナジウムは大学に進学するための高校で，学力の高い生徒が進学する高校の卒業試験はマトゥリタと呼ばれ，とても難しく，これをパスした学生が大学へ進学の試験を受けられる。チェコは，22の大学と45の私立大学がある。私立大学に入学するには，難しくなく，学費も10万から20万くらいであまり高くない。公立大学は，学費はかからず，寮費のサポートなどもある。普通の大学は5年間，医学部は，6年間である。



プラハのギムナジウム

ジェームズ学長・通訳の方と

ジェームズ学長の考えと個別の質問から

ジェームズ学長によると，教員は，学校の教育意外に事務仕事が多く，忙殺されている。本来は，家庭で教えるべきものまで，学校に求める傾向があり，政治家も同調しているので困る。能力が高くても，それを達成するための忍耐力が欠けているなど，家庭で培う能力が欠けているなど基本的な教育がされていない場合もある。仕事などもしっかり，気分良くこなすように教育してあげること

が大切である。

日本では，核家族化，少子化が進んでおり，子どもが少なくなっている。また，0歳児から保育園に預けている家庭も増えているが，チェコはどのような状況なのか，尋ねてみた。

近年，家庭では，複数の子どもを持つことが減っている。女性は，母性の薄れや丁寧に子育てすることが少なくなっていることも見受けられる。また，小さい子への金銭的サポートが欠けていると感じている。チェコでは，ほぼ共働きであり，共働きでないとやっていけない。1歳から3歳までは保育園に預けている家庭もあるが，一般的には3歳から5歳まで，幼稚園に預けている。母親は，子どもが3歳までは，3年間の産休が認められており，また同じ職場に復帰できる体制である。ジェームズ学長自身も，あまり小さいうちから，預けることをよしと思っておらず，家庭で母親が育てるべきであるとのお話であった。チェコでは，就学前教育をどのくらい行っていけばよいのかは，協議中であるとのこと。乳児は母親の手で育てるという意識が高い様子が伺えた。

おわりに

チェコは，現代の学校教育の仕組みを構築した有名なコメニウスの活躍した国である。また，神聖ローマ帝国の主要都市として繁栄した古い歴史を持つ町であり，歴史的建造物も数多く現存し，街自体が文化遺産である。特にプラハは千年の歴史を誇り，ロマネスク，ゴシック，ロココ，ルネサンス，アール・ヌーヴォーなど，あらゆる建築様式が混在し，「黄金の街」と言われた中世都市である。

地球上には，消滅の危機に瀕する小言語・小文化は，今日も増え続けているが，チェコ人は，ドイツ語の上位言語の利便性を選択せず，自分達の言語を守り再生する道を突き進んでいった。チェコの民主国民運動には，他の文化圏からの圧力，言語的支配などから，自らのアイデンティティの意識を高め，自らの文化を愛おしみ，擁護する気持ちを形にしていった。島国である日本で単一民族として文化を守ってきた歴史の中で生まれ育ってきた私たちには，経験したこともない隣国に翻弄された壮絶な歴史をもつ国である。

カルレ橋からプラハ城を望む
カルレ橋の欄干には，聖人や歴史上の人物が
30体並んでおり，歩行者専用である。

プラハ城内に建つ聖ヴィート大聖堂

921年に即位したヴァーツラフ1世は，キリスト教の布教に努め，東フランク王国のハインリヒ1世から譲り受けた聖人ヴィートの遺骨の一部を安置するためにプラハ城の敷地に聖ヴィート大聖堂を建設したといわれている。

15 世紀頃作られたという天文時計

死神が鳴らす鐘の音とともにキリストの12使徒が現れては消えていき，最後にトランペットが奏でられる。

黄金小路（錬金術師の住まいだった）

現在はみやげ物屋が並び，クリスマスは1/20頃まで楽しまれる

カルレ橋の聖人彫刻像

聖フランシスコ・ザビエルを支えている
日本人像の侍ではないかといわれている